

## 深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2019年4月4日

今月のトピックス 「令和時代に期待するのは新たなスター企業」

いよいよ平成時代が幕を閉じる。平成はバブル期のピーク圏でスタートしたことから、経済（景気）に関しては誇れるものが無かった時代とも言える。失われた20年、あるいは30年とも揶揄されるのは致し方ない気もするが、次の令和時代には日本でも世界に誇るスター企業の誕生（登場）を期待したいものである。下表は1989年（平成元年）12月と2019年（平成31年）3月末のわが国の上場株式の時価総額ランキングである。このランキングを一目見てなんだかんだと言っても、日本の大手企業（時価総額ベース）の顔ぶれも変わったものだ。平成元年当時は金融株が市場を席捲していたが、平成時代の最後の方はハイテク株の上昇が目立ったものな！などの感想を持つのは控えていただきたい。何が言いたいのかといえば「日本の企業は新陳代謝が起こらない（大手企業の顔ぶれが変わらない）ものだ」と危機感を持って欲しいのである。米国を持ち上げるわけではないが「GAFA」や「FANG」などと称される企業が世界を席捲している（超大企業に成長している）のはご存じの通り。GAFAやFANGと証される企業のうち、最も設立年が古いのはアップルの1976年。アマゾン1994年、グーグル1998年、フェイスブック2004年、ネットフリックス1997年とアップル以外は全て平成時代に設立された企業である。アップルも一度破綻しかけたことを考えると、その復活は平成時代と述べても過言ではないはず。これほど米国企業は新陳代謝があるからNYダウなどの株価も高く、また賃金上昇、経済性も成長という好循環が起こっていると思われてならない。

改めて時価総額ランキングを見ると、最も設立年が新しいのは三菱UFJフィナンシャルグループの2001年。一応、平成時代と言えるものの、銀行の大再編により個別銀行を含む民間の金融機関のグループ会社として設立されたに過ぎない会社だ。だれも先にあげた米国の大企業群と比肩するとは思わないことだろう。せいぜい2位のソフトバンクグループが辛うじて同位置にあげられるかもしれないが、同社は上場こそ1994年だが設立は1981年である。令和時代がまだスタートしていないため鬼が笑うだろうが、せめて令和時代の終わりの時価総額上位は、平成時代または令和時代に設立された企業が上位に並んで欲しいものである。さすれば令和時代は、平成時代と異なり経済的に豊かな時代となるのではないか。

## 時価総額ランキング

平成元年12月末	順位	平成31年3月末	平成元年12月末	順位	平成31年3月末
NTT	1位	トヨタ自動車	三菱銀行	6位	三菱UFJフィナンシャルグループ
日本興業銀行	2位	ソフトバンクグループ	東京電力	7位	武田薬品工業
住友銀行	3位	NTT	三和銀行	8位	KDDI
富士銀行	4位	キーエンス	トヨタ自動車	9位	ソフトバンク
第一勧業銀行	5位	NTTドコモ	野村證券	10位	ソニー